

令和５年度淀川区区政会議第３回教育・子育て部会議事要旨

日 時：令和 6 年 3 月 19 日（火） 午後 6 時 30 分～午後 7 時 45 分

場 所：淀川区役所 ５階 会議室

出席者：

- ・委員 7 名（8 名中）

梅原委員、岡田委員、佐々木サミュエルズ委員、田中委員、中村委員、西川委員、齒黒委員

- ・区役所

岡本区長、橋本副区長、田口政策企画課長、竹田こども教育担当課長、吉國健康推進担当課長

大橋政策企画課長代理、生駒保健福祉課教育支援担当課長代理、山村保健福祉課子育て支援担当課長代理、野崎保健副主幹ほか

内 容：

1. 開 会
2. 区長あいさつ
3. 議長・副議長の選出
4. 令和 6 年度淀川区運営方針（案）について
5. 令和 6 年度淀川区関連予算（案）について
6. 区政会議におけるご意見への対応方針について
7. 個別テーマごとの意見交換

資 料：

【当日配付資料】

- ・次第、進行表
- ・区政会議部会名簿、座席表
- ・ご意見票
- ・よどマガ！3月号

【事前配付資料】

- ・（資料 1）令和 6 年度淀川区運営方針（案）
- ・（資料 2）令和 6 年度区長自由経費予算事業一覧
- ・（資料 3）区政会議におけるご意見への対応方針
- ・（資料 4）個別テーマごとの意見交換について

1. 開 会

2. 区長あいさつ

3. 議題

(1) 議長・副議長の選出

梅原委員を議長、田中委員を副議長とすることに決定。

(2) 令和6年度淀川区運営方針（案）について

○令和6年度淀川区運営方針（案）について区役所より説明

- ・子育てや教育環境が充実したまちづくりということで、このアウトカム指標は書いてくださっていましたが、区民アンケートで安心した子育てができる環境であると感じるというのは、これは当事者の子育て中の保護者たちに対して、こちらの区が取り組んでいることがどのぐらいの効果を与えてるかというのを指標としてはすごくいいと思うんです。

2番目の指標ですが、児童生徒の学力・体力がということがあるんですけども、淀川区としてその子育てや教育環境が充実したところをめざされているのであれば、当事者の子どもたちの意見を聞くということも非常に有意義なことだと思うんです。去年の4月に、こども法制も国内で法整備が整いました。そこでは、非常に大きな画期的なこととして子どもの声を聞くということが法律に盛り込まれています。淀川区として、その子どもに優しい、子育てがしやすい街というのをめざされるのであれば是非、子どもの声を聞いてみるということもされてみるのは画期的ではないかなと思ひまして、意見させていただきます。（佐々木サミュエルズ委員）

⇒運営方針の仕組みとして、分かりやすい指標を用いて経年で比べる、仕組みとされており、それに基づいてやっております。

いただいた御意見で、子どもから意見を聞くことについていろんな手法をこれから検討しなくてはいけないと思いますし、もちろん、これから時代に応じてこの運営方針の評価指標がそもそも変わっていく中で、子どものことについては子どもの意見を聞いたらいいいんじゃないかといった御意見を踏まえて何がアウトカム指標にふさわしいかというのは、検討させていただきたいと思っております。（竹田こども教育担当課長）

- ・アウトカム指標に使えない意見も子どもたちからはきっと出てくると思うんです。子どもたちって、大人が思いもしないようなカーブボールを投げてるんですけども、もしかしたらその中に自らがヤングケアラーだと気が付いていない子どもの意見とか、もしかしたらその中の子どもが助けてほしいと

いう意見も来るかもしれないと思いますので、何らかの形で活かさせていただけたらうれしいなと思います。(佐々木サミュエルズ委員)

(3) 令和6年度淀川区関連予算(案)について

○令和6年度淀川区関連予算(案)について区役所より説明

- ・4番の「不登校児童生徒支援事業」についてですが、今までこれは全く予算が付いてなかったんですけど、今回予算を付けて、そのボランティアが具体的にはどういう支援をしていこうということなんでしょうか。(梅原議長)

⇒有償ボランティアが学校に入り、児童・生徒の中で家に迎えに行くことで登校を促すことが出来るようなお子さんに対するお迎えと、登校後、別室の教室で過ごされる場合に、先生にすぐ引き継ぐのではなく、別室で授業を受ける事ができるような準備等の支援をメインにさせていただこうと考えております。(山村保健福祉課子育て支援担当課長代理)

(4) 区政会議におけるご意見への対応方針について

○区政会議におけるご意見への対応方針について区役所より説明
意見なし

(5) 個別テーマごとの意見交換

○部会をさらに二つのグループ(A班・B班)に分けて自由討議を実施。
自由討議の後、各委員より討議内容を発表。

主な討議内容及び区役所からの回答

- ・教育・子育て部会なので、もっとその子どものことを具体的に話し合う場かなと思ってたのですが、どうもそうでもないような感じが第一印象でして、私も何でここへ入らしてもらったかといったら、地域の町会長さんから誰もいないから、年3回ぐらい会議に出てくれたらそれでよくて、そうしたら頼むねという感じで入らしてもらっています。
やっぱりもうちょっと具体的に子どものことで地域ごとの意見を集約する場でいいと思うんです。以前は、区長も御存じかと思いますが、年3回子ども教育会議って開催されてたと思うんですよ。そのときは、その場って結構現役の保護者さんが半分ぐらいおられまして、具体的な現場の意見を出し合って議論を交わしてたような場があったんですけど、それがもうコロナ禍で断ち切れになってしまいまして、だからもしできたら年1回でもいいんで、またそういう場を1回復活さしてもらえたら、今だから特にやっぱり不登校の問題、ヤングケアラーの問題、こういう何か本当に現

場で起こってる具体的な問題を話し合うような会議をしていただけたらありがたいかなと思います。(岡田委員)

- ・区政会議のこの子育て部会ですかね。そもそもはどういう意図でどういう趣旨で、どういうことを議論するのかという、提案して提唱するのかというようなことの中身の説明ってしていただいていいですか。(梅原議長)

⇒区政会議の基本となる事項に関する条例というのがございますので、そこで明示されているところです。

冒頭区長からもお話があったとおり、これも条例ができて10年余りが経とうとしています。全体会というのが、まず中心でした。

一方で、あまり人数が多いということもありまして、部会というのを作っています。私が知る限り大半の区で部会を立ち上げて、そこで個別のお話をすると。今は26名いらっしゃるの、今年度から、どちらかといえば部会中心主義という考え方に移行しようとしています。なかなか意見が言いにくいという御意見を多数いただきましたので、試行錯誤的に今回から部会で今、やっていただいたとおりの委員さん同士で顔の見える関係というか、そういう場でお話ししていただいてから、またみんなの前で発表していただき、その発表内容は、ホームページにアップさせていただきます。(田口政策企画課長)

- ・各校園の学校協議会あるじゃないですか。そこで出たような意見を吸い上げて、ここで話合いするのかなっていうイメージが正直あったんです。(岡田委員)

⇒今いろいろと会議の名前をおっしゃっていただいて、今大阪市で子ども、住民の方と学校と行政、区役所とその3点が三者で、それぞれ意見交換というか、連携をするようにということで学校協議会というのが学校と地域の住民の方との話で、地域でこんなだよみたいなんで学校でこんだけ勉強を教えていますというような話をするのが学校協議会、地域と学校です。学校と区役所ということで教育行政連絡会議といいまして、各校長、小学校と中学校とそれぞれ会議があるんですけども、各校長と行政の区長等が意見交換をして、学校現場ではこういうことが起こっているから、区独自でも、こういうことをやってほしいとかそういった意見交換をする場があります。

もう一つ、今おっしゃっていた子ども教育会議というのがコロナ禍で書面で開催してみたりとかそういうのがあって、今は断ち切れてしまっているんですけども、住民の方と行政が地域ではこんな今、子どもたちはこんなところで遊んでるよとかいろんな意見を情報をもらったりとか、そうしたらそれに合わせてこんな施策が打てないかみたいな話をする場が子ども

教育会議で、実はそれがこの場を、その子ども教育会議に兼ねたいというのが我々の思いですので、今日はこうやってグループでお話をされてると思うんですけども。年に3回、4回ある中の何回かで、例えば委員の方から今、現場ではこんなことが起こってるみたいなテーマを出していただいて、それで議論の中で、今こういうことをやっているから、区役所ももっとこういうことをやってみてほしいな話をするのが区政会議の部会かなと思ったりしています。(竹田こども教育担当課長)

- ・私も子ども教育会議に参加させていただいております、こちらのほうに参加させていただいているんですが、こちらはその機能を兼ねたいということでしたので、先ほど出た意見をこちら発表させていただくと、今不登校の子どもが爆発的という言い方でもいいぐらい増えてると思います。その子たちをどうするのかというのを、本腰を入れて考えていただきたいです。いじめの件数が減っています。それはなぜかという、そのいじめに関わった加害被害と言われる、その子どもたちが学校からいなくなっている。そのままにしているのかというところですよ。もうちょっと本腰を入れて、じゃあ区としてどうやってそのいじめの現場に手を差し伸べて解決につながるような、もっと具体的に言えば、お金を出すということですよ。予算を組んでいく、どういう方策を立てていくのかということがお話しできたら、より子ども教育会議に近いのではないかなと思います。(佐々木サミュエルズ委員)

- ・子育てに関する区の取組について、それを周知されていないというところが課題じゃないんじゃないかなという意見が出ました。
もしかしたら、ホームページであつたり何かしら、こういう広報室であつたりというので発信されてるんだと思うんですけども、それが高齢者の方に比べると子育て世代に対しては行き渡っていないというのが課題かなというところで御意見がたくさん出たような状況です。
今、SNSであつたりとか、専用のアプリであつたりとか、そういうような手段はたくさんあるんですけど。あるのにもかかわらず、それがうまく活用できてないのかなという、ここは私の個人的な意見なんですけども。その辺りを工夫すると、もっと子育て世代で例えば孤独に、本来必要な情報が行き届いていない御家庭に対してもっと行き渡せることができるんじゃないかなというところは、このグループで話を聞いてて、私個人的にも思ったことです。(田中副議長)
- ・子どもの居場所なんですけど、私自身も小学校、中学のPTAとかに関わってたんですけど、その頃に比べると今、先ほどもおっしゃったように不登校とか、やっぱり数が全然違うんです。昔であれば、学校の近くまで来

てくれてた子もたくさんいるんで、その子たちをつていうぐらいの数だったんですけど、そういうことで子どもの居場所で、わずか何年かの間にこんなに変わってしまうのかなというのが正直なところで、それは何が原因かというのが僕自身も分かってないんで、こういう場でやっぱりいろんな話ができたかなとは思ってますし、コロナで3年間ほんとにみんな誰もが経験したことないようなことがあったんで、会社なんかだったらリモート会議で平気でいまだにそのままなんで、そういうことも含めて何か方法ってあるのかなと思います。(西川委員)

- ・子育てサロンがついて、やっぱりまるまる3年なかったものですから、ほんとにこの周知の手法とかそういうのが大変です。

今年度いろいろ改正があったのですが、今まで何してたのかなとか、それから他地域18地域のどこの地域さんではどういうことをやられてるんですかとかいう情報が余り入ってこないんで、分からないことが多いんです。だから、それが分かればお互いみんなでこの18地域の子育てサロンの方々の情報っていうのをもっと共有していただいたらありがたいなあと思うことがたくさんあります。

それと、やっぱりその周知の仕方で、うちは最近回覧坂も回すようにしています。あと昨年もお願いしましたが保健師さんに小さいサイズの年間の予定表をお渡しして、訪問されている田川の地域の子どもさんに渡していただくということもしておりますし、あと今、フェイスブックを導入していますと言ったけど、フェイスブックは古いらしいです。だから、ほかのインスタグラムとかX(旧ツイッター)とかなんかいっぱいあるやつ、あれをまたもうちょっと勉強しないといけないなと思っている次第でございます。(中村委員)

- ・情報発信というのがなかなか難しい。行き渡っていない現状はすごく身に染みています。私自身も、今高校生と小学生の子どもがいて、私自身はもちろん町会にも加入して、その町会の中で役員として活動もさせていただいてるんで、いろいろ情報は手中にある状態でいろいろ活動はしてるんですけども、昨今の町会に加入されていない方というのも、もちろん大勢いらっしゃるんですけど、でも先ほどもおっしゃったように情報の提供の仕方が回覧板であったりとか地域の掲示板、町会の掲示板であったりとかってということがメインになってくるということで、そうなってくると、やっぱり町会加入されていない方に、いかに周知していくのかっていうのがすごく大きなテーマになってくるのかなと思いました。(齒黒委員)
- ・子どもの現状をどう把握していくのかというところが一番の問題かなと思ってまして、不登校の子がいたり、ヤングケアラーの子が実際どれぐらい

いて、どういうことでこの淀川地域がなっているのかというところ辺は、もうちょっと具体的に情報を得れるような策を取らないといけないではないかなという気はしてるんです。

まずは誰にでも子どもに対してでも、おはようとかお帰りとか、学校から帰ってきたときもお帰りとか、まず声を掛けて顔の見える関係をまず作る、そういうことをいっばいしないといろんなことが見えてこないんだということをお話しさせていただいたんですけども、そういうのにどれだけ予算を投じて、主任児童員さん一人ではもうとても無理なので、やっぱりこの不登校のボランティアさんも大事なんですけど、日頃から地域の情報をつかみ得る人の人材をどう配置しておくのかとか、まずそこをやらないと、この子育て部会の立案とかなかなか難しいんじゃないかなと思うんです。(梅原議長)

- ・教育はもうそれは学校現場と地域とほんとに密にやる。でも、学校の先生も働き方改革で、先生が遅くまでいろいろ世話してくれたりとか、もうほんとに家庭訪問とかをしょっちゅう行ったりして、不登校の子に手厚い支援をできないんなら、じゃあ、どういうことができるのかということを決める施策として考えないといけないとか、そういうことをやっぱりこの部会では考えて立案していかないといけないのかなという気はしております。(梅原議長)